

製品名: HP-1 α (5E3)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM12186**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	CBX5 HP1A
別名	Chromobox protein homolog 5 (Antigen p25) (Heterochromatin protein 1 homolog alpha) (HP1 alpha)
遺伝子 ID	23468.0
SwissProt ID	P45973
免疫原	HP-1 α の組み換えタンパク質

背景

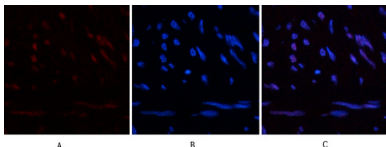
この遺伝子は、ヘテロクロマチンタンパク質ファミリーに属する、高度に保存された非ヒストンタンパク質をコードしています。こ

のタンパク質はヘテロクロマチンに豊富に存在し、セントロメアと関連しています。このタンパク質は、メチル化されたリジン残基を介してヒストンタンパク質に結合できる単一の N 末端クロモドメインと、多数のクロマチン関連非ヒストンタンパク質とのホモ二量体形成および相互作用を担う C 末端クロモシャドウドメイン (CSD) を有しています。コードされる産物は、必須のキネトコアタンパク質との相互作用を介して、機能的なキネトコアの形成に関与しています。この遺伝子は 3 番染色体上に偽遺伝子を有しています。同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシングバリエントが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能：ヘテロクロマチンの構成要素。「Lys-9」がメチル化されたヒストン H3 末端を認識して結合し、エピジェネティック抑制を引き起こします。ラミン B 受容体 (LBR) と相互作用します。この相互作用は、ヘテロクロマチンと核内膜の会合に寄与します。MIS12 複合タンパク質との相互作用を介して、機能的な動原体の形成に関与します。、PTM: HP1 および LBR のリン酸化は、細胞周期の様々な時期に起こるクロマチン構成および核構造の変化の一部に関与している可能性があります (類似性による)。間期にリン酸化され、有糸分裂中に過剰リン酸化される可能性があります。、類似性: 2 つの染色体ドメインを含みます。、細胞内局在: セントロメアおよびセントロメア周辺ヘテロクロマチンの構成要素です。有糸分裂中に染色体と会合します。中期および後期にクロマチンと特異的に会合します。、サブユニット: SUV420H1 および SUV420H2 と相互作用します (類似性による)。クロモシャドウドメインを介して ATRX、CHAF1A、LBR、NIPBL、SP100、STAM2、TRIM28 と直接相互作用します。クロモシャドウドメインを介して CBX3 とも直接相互作用します。Lys-9 がメチル化されたヒストン H3 と相互作用します。MIS12 および C20orf127 と相互作用します。HP1BP3 と相互作用します。

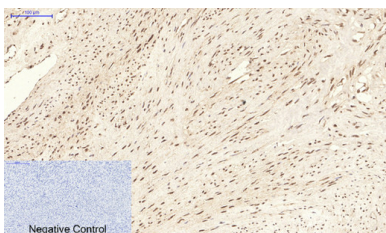
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

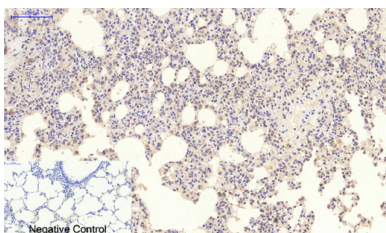
画像データ



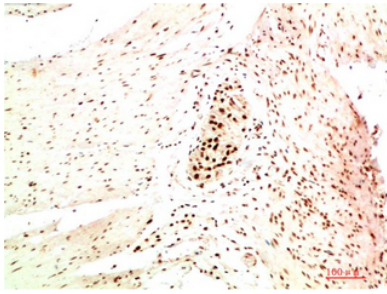
ヒト子宮組織の免疫蛍光染色。1, HP-1 α マウスモノクローナル抗体 (5E3) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



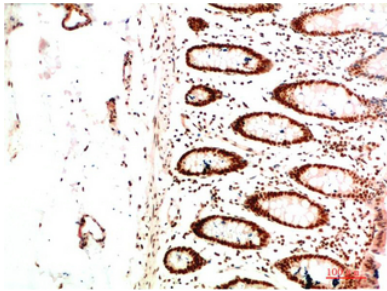
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. HP-1 α マウスモノクローナル抗体 (5E3) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



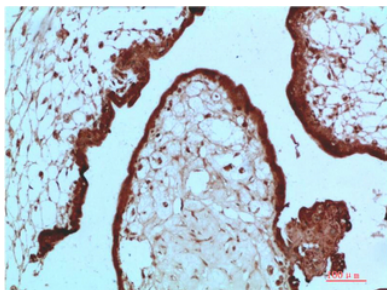
パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. HP-1 α マウスモノクローナル抗体 (5E3) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



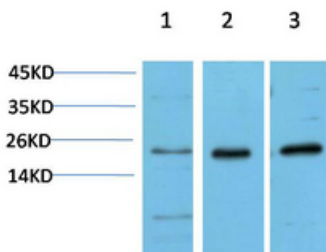
1:200 希釈 HP-1 α マウス mAb を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学分析



1:200 希釈 HP-1 α マウス mAb を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学分析



1:200 希釈 HP-1 α マウス mAb を用いたパラフィン包埋ヒト胎盤組織の免疫組織化学分析



1) HeLa 細胞ライセート、2) 3T3 細胞ライセート、3) PC12 細胞ライセートを 1:1000 に希釈した HP-1 α マウス mAb を用いてウエスタンブロット解析した。